CS
相談会

大分市立豊府小学校の相談②

校内の検証改善サイクルとCSの連動 ／ ネットワークとプラットフォーム

相談内容

- 学校運営協議会が核となり、保護者や地域の諸団体がネットワークを構築して、豊府の子どもを学校、保護者、地域がともに同じ方向で育てていくことを目指したい。
そのためのネットワークづくりはどうあればよいか？

「 学校のPDCAと学校運営協議会のPDCAは同じ 」

助言者：四柳 千夏子 氏
三鷹市教育委員会
（文部科学省CSマイスター）

- 学校は、学校経営計画を作り、教育を実践し、自己評価を行い、成果・課題を出し、次年度につなげています。いわゆるPDCAを回しています。
- 他方、学校運営協議会は、「学校はこういうことを目指しているんだ」ということを承認することで合意形成を行い、それに基づいた実働があります。学校は学校で、地域は地域でそれぞれ活動をしていきます。そして、それがどうなったかを皆で振り返り、また次年度につなげていきます。
- 私は、学校運営協議会のPDCAも、学校のPDCAとほぼリンクをしながら回るものと思っています。

- PDCAサイクルの中で、一番大切になるのは、「P（承認・合意形成）」になります。「皆で同じ目標をもって1年間を進めていく」、ということが大事だということです。
- では、その「P」が豊府小学校では何かというと、それは「学校経営方針」に記載されている内容ですね。学校運営協議会の委員さんは、この「学校経営方針」を承認しているはずです。
- そして、学校運営協議会では、「学校経営方針」を実現できているのかどうか、進捗状況はどうなのかを協議していきます。
- そこに「熟議」が必要となります。

「 委員も会議をどう運営していくのか考えないといけません 」

- 「P（承認・合意形成）」に基づいて、次は「Do（実働・学校教育活動・地域学校協働活動）」になります。
- 「Do」は、「学校が何を目指しているのか、何を実現しようとしているのか」を踏まえ様々な活動をしていきます。
- 例えば、「地域の人を活用した授業を行いたい」ということは、「学校経営方針」を実現するために行われるものです。
- よって、学校と地域が一緒になって「何を目指そうとしているのか」という共通理解が非常に重要となります。
- そのために学校運営協議会を開催しているわけですが、「何を実現させるための学校運営協議会なのか」は、委員の皆さんも考えていかないといけません。校長先生だけにお任せしてはいけません。
- 地域の委員さんも、いい会議にするにはどうしたらよいかを一緒に考えましょう。

「 自分たちの目指す地域組織のイメージをもちましょう 」

- 地域の組織として、学校運営協議会が一番上にあり、その指示系統の下に地域学校協働活動がある、いわゆるピラミッド型の組織の関係はうまくいきません。なぜなら、地域には上下関係がないからです。
- ではどう考えるかというと、学校運営協議会や地域学校協働本部で「プラットフォーム」をつくり、そこにいろんな人が集まってくる、という地域の組織をイメージした方がうまくいくと思います。
- ピラミッド型の組織ではネットワークは作れないので、「プラットフォーム」として、いろんな人たちが集う場を作ることがネットワークづくりになると思います。